

## 岩手大学森林系教員と地域林業関係者のアカマツ研修会

平成23年12月9-10日に、久慈市内で、岩手大学から10名、久慈地域から林業関係者10名が参加し、素材生産、森林施業、利用について現状の説明・意見交換、工場見学が行われたので報告します。

### 1 意見交換の内容

振興局からは、久慈地域の森林資源、伐採状況、素材の販路の状況について情報提供を行った後、地域林業関係者と意見交換が行われました。

#### (1) 素材生産の採算性

- ① 震災後、支出(立木購入、人件費、林業機械の償却費)と収入(素材売上げ)のバランスが崩れ、事業展開が難しくなっている。
- ② アカマツは価格低く、販路が少なく、需要が不安定な状況

#### (2) 森林施業と素材の販路確保

- ① 素材の販路は、国際情勢、景気の動向に大きく左右される。
- ② 素材の販路が確保されなければ、伐採を行うことが難しい。
- ③ 森林所有者では、素材価格の情報が非常に少ない。

#### (3) 地域材利用の推進

- ① 乾燥材の出荷が前提
- ② 建築側の材料発注から着工までの時間と、製材側の受注-製材-出荷までの時間が異なる。

### 2 工場見学

チップ工場である(有)丸与木材店の見学が行われました。



写真1 工場貯木場 ①4000m<sup>3</sup>/月の丸太(N,L材)をチップ化、②三菱製紙八戸工場へ出荷、③現在は素材生産事業体の救済のため、3か月分を貯木している、出荷の目処が立たない、④針葉樹丸太にはABC材が混在



写真2 チッパーへの丸太投入

### 3 今後の展開

まとめとして、岩大 岡田教授から、「震災後、丸太の販路が激減したことによる地域林業の影響について、認識が共有され、今後、出口対策に積極的に取り組むことが重要であり、岩手大学として、地域との情報交換を進めたい」とのことが話されました。